

R8年度 ソーントン・ドノヴァン校（TD校）生徒短期留学

～広島空港到着～

6月21日（日）、アメリカ合衆国ニューヨーク州にある姉妹校、ソーントン・ドノヴァン校（TD校）から、生徒4名と引率教員等2名が広島空港に到着されました。

到着時には、ホストファミリーの皆様をはじめ、NPO世羅国際交流教育ネットワークの方々、本校の生徒たちが出迎えに駆けつけ、ウェルカムボードを掲げて温かく歓迎しました。



全員での集合写真



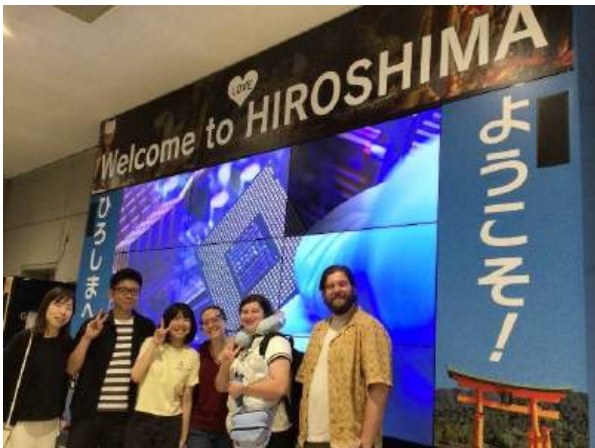
長いフライトなので即ホストのもとへ



ホストファミリーとの対面 河野さん



荒木さんは、クロエの元ホストファミリーでした



原さんは初めてのホストファミリー



繁森さんはクロエ宅でお世話になった恩返し

～歓迎式典と被爆体験伝承講話～

6月23日(火)、世羅町企画課長 藤川道代様、世羅町教育長 早間貴之様、NPO法人世羅国際交流教育ネットワーク会長 上野悟様、理事 大谷敏朗様をお迎えして、歓迎式典を行いました。平野剛校長が、「ソーントン・ドノヴァン校と世羅高校の交流は、2010年のつながりから16年続いています。今回のみなさんの滞在中にも、広島でしか体験できない様々な活動を準備しています。これらの活動を通じて一層日本の歴史や文化について理解を深めていただきたいと思います。」と英語で挨拶されました。藤川道代企画課長は、「平成22年の姉妹校提携以来、長年にわたり素晴らしい国際交流を続けてこられた両校の関係者の皆様に、深く敬意を表します。世羅町は、豊かな自然と温かい人々にあふれた素晴らしい町です。ぜひ、日本の文化や歴史を肌で感じ、世羅高生とたくさん言葉を交わして、一生の宝物となる友情を育んでください。」と述べられました。早間教育長は、「高校生が外国に行って過ごし、その国のことを学ぶことは、とても大きな価値があります。なぜなら、自分の国とは違う文化があることが実感できるし、また、今よりも、もっと自分の国を愛するようになるでしょう。」と英語で挨拶をされました。生徒代表の生徒会副会長の前原優莉さんも、「これから十日間、みなさんは授業だけでなく、広島や大久野島での平和学習にも取り組みます。さらに、私たちの文化祭に準備期間から参加することもできます。一緒に素晴らしい時間を過ごし、たくさんのいい思い出を作れたらいいと思います。何か手助けが必要なら、新しいクラスメイトや先生に気軽に尋ねてください。皆さんがこの学校で楽しめるように最善を尽くします。」と英語で歓迎の言葉を述べました。また、TD校のマッキー先生は、「私たちはこの文化交流プログラムを、平和、教育、友情の精神で非常に大切にしています。かつてのTDの生徒たちは、日本の高校に通い、ホストファミリーのもとで過ごした経験から多くを学びました。淀川先生、世羅高校の皆さん、そして交換留学プログラムに関わる皆さんに感謝します。今後もっと多くの学生が参加することを願っています。」と挨拶し、両校で記念品交換をしました。



歓迎式典でTD校のマッキー先生と平野校長先生が記念品交換をされました

歓迎式典後、被爆体験伝承者の辻 靖司（つじ せいじ）さんをお迎えし、本校生徒全員を対象に平和学習を行いました。辻さんは、平和記念資料館の館内展示品の説明や平和記念公園の慰霊碑、記念碑のご案内をするピースボランティア活動に 2005 年度から取り組み、日本語と英語で案内をされ、さらには広島市内の小学校、中学校、高校を訪問しての平和学習講座にも取り組んでおられます。2012 年度に発足した被爆体験伝承講話活動の第 1 期生として、日本全国の小学校、中学校、高校や一般企業を訪問しての講話活動を継続されています。

講話を聴いた後、生徒会長の吉国悠哉君は、「ご自身が幼少期に空襲を経験され、被爆されたお兄様を焼け野原の中で探し歩いたという生々しい記憶、そして定年後に「千里の道も一歩から」と 20 年以上も国内外へ発信を続けられている行動力に、深く感銘を受けました。『平和継承は誰でもすぐに始められる』という言葉に背中を押され、私たち若い世代がこの熱い思いを受け継ぎ、伝えていく責任を感じています。原爆の悲惨な歴史を二度と繰り返さないために、私も辻先生のように平和の尊さを語り継いでいこうと思います。」と謝辞を述べました。

続いては、英語による伝承講話を辻さんにいただきました。TD の 6 名と、3 年生普通科生徒 61 名対象です。体育館で聞いた日本語の内容を、今度は英語で聞きました。日本の生徒にはいくらかは知っていることもありましたが、TD の生徒たちにとっては、知らない内容が多く、真剣に聞いていた姿が印象的でした。



全校生徒に被爆伝承講話をされる辻さん



TDの皆さんと辻さん



原爆が投下された 8 : 15 で止まったままの時計



生徒代表謝辞を青木君が英語で述べました

～広島市での平和学習～

6月25日（木）に、TD校と世羅高校の生徒合わせて23名が広島市での平和学習と自由散策を行いました。

平和記念公園に到着後、生徒たちは平和記念資料館を見学しました。6月23日（火）に行われた、辻 靖司さんによる被爆体験伝承講話を踏まえながら、当時の資料に改めて向き合い、戦争の悲惨さと平和の大切さについて深く考える機会となりました。限られた時間ではありましたが、留学生たちは少しでも多くのことを学ぼうと、真剣なまなざしで展示を見つめていました。

資料館見学後には、慰霊碑のアーチ越しに原爆ドームを望む原爆死没者慰霊碑にて献花を行いました。激しい雨が降る中、生徒たちは原爆によって失われた多くの尊い命に思いを寄せ、平和への祈りを込めて静かに花を捧げました。続いて、原爆の子の像のもとに千羽鶴を奉納しました。世羅高校の全校生徒とソーントン・ドノヴァン校の生徒たちが心を込めて折った千羽鶴には、恒久平和の実現を願うメッセージが添えられています。

被ばく81年を迎える本年に、日本とアメリカの生徒が共に悲劇に向き合って平和について考えた時間は、世界平和への決意と希望を感じさせました。



慰霊碑への献花



千羽鶴の奉納



入館前、通訳さんの説明を聞く。



展示資料の説明に見入る人たち

原爆ドームの模型を共に見つめる両校生徒



原爆ドームでの見学を通して、平和の重要性への理解を深めたTD生徒たち



平和記念資料館では、焦げた三輪車や遺品の展示が特に印象に残りました。展示されているものは単なる物ではなく、それぞれに持ち主の生活や家族との思い出があったことを感じました。原爆によって多くの人の日常が突然奪われたことを知り、命の大切さについて改めて考えることができました。（生徒の感想より）

やけどの写真や当時の様子を描いた絵を見て、教科書だけでは分からない原爆被害の現実を学ぶことができました。戦争は遠い昔の出来事ではなく、実際に多くの人々を苦しめた歴史であることを実感しました。事実を正しく学び続けることが平和につながると思います。（生徒の感想より）

今回の見学を通して、平和は当たり前ではないことを学びました。戦争を二度と繰り返さないためには、相手を理解し、身近な人を大切にすることが重要だと感じました。これからは家族や友人にも学んだことを伝え、平和について考えるきっかけを広げていきたいです。（生徒の感想より）



原爆死没者慰霊碑前にて

午後には、4つのグループに分かれて広島市街を散策しました。当日は雨天で、広島城も天守閣の改装工事中であったため、残念ながら車窓から見学するだけとなりました。天守閣内で兜や刀などの日本文化を体験してもらうことはできませんでしたが、世羅高校の生徒たちが本通り周辺を案内し、英語でコミュニケーションを取りながら昼食や買い物を楽しみました。お目当てのアニメグッズなどの記念品を購入できた生徒もあり、両校の生徒たちには笑顔があふれていました。日本の文化や街について英語で伝え合う体験は、互いの文化への理解を深めるとともに、さらに英語を学びたいという意欲につながったようです。



どこいこうかなあ？やっぱりお好み焼きかな。
えっ、パスタが食べたい！？
よし、行こう！

～授業体験

課題研究・生物・農業～

6月23日（火）、TD生徒が2年生生活福祉科の生徒の授業「課題研究」の授業に参加し、保育技術検定2級の課題である、折り紙を使った壁面構成に挑戦しました。本校生徒もコミュニケーションを取りながら、日本の伝統文化である折り紙を一生懸命教えていました。TD生徒も生き生きと、思い思いの作品を完成させていました。



折り図を使ったり、実際に折って見せたりと一生懸命教えていました。



授業の終わりには、TD生徒がお菓子をプレゼントしてくれました！

6月24日（水）、TD生徒とマッキー先生、ケビンさんが、3年普通科の生物の授業に参加し、植物の葉に含まれる光合成色素の分離実験に挑戦しました。シソやパセリの緑色の葉の中に、黄色やオレンジ色の色素が含まれていることを楽しんで調べていました。マッキー先生は生物の先生でもあり、参加生徒たちも非常に積極的に質問をしたようです。本校生徒も、頑張ってコミュニケーションをとろうとしており、難しい理科の用語も一生懸命に調べながら頑張っていました。

今回の授業体験は、マッキー先生の強いご要望もあり、理科の授業に多く参加されました。マッキー先生ご自身が生物の先生であり、授業のやり方に興味津々でした。また、農業の授業を次の学期から小学校で取り入れたいとおっしゃっており、農業の授業にも積極的に参加されました。



理科の実験の方法を詳しく質問する生徒



マッキー先生が一番楽しみにされていた理科の授業は、今年度4時間ありました

7月1日(水)、TD生徒とマッキー先生、ケビンさんが、1年農業経営科の生徒が交流授業をし、農場でブルーベリーの収穫、ブドウの枝の誘引に挑戦しました。

外での実習でしたが、あいにくの雨模様で傘をさしてのブルーベリーの収穫、試食となりました。ニューヨークでは、自然や農業体験知る機会はないとのことで、みんな興味津々で積極的に授業に参加してくれました。ブルーベリーは収穫し始めなので、収穫量は多くありませんでしたが、大粒の完熟した実は甘酸っぱく、「美味しい」と大満足でした。

ブドウの誘引作業には、作業効率を格段に高める専用の結束機(テープナーなど)が広く使われています。手でヒモを結ぶ作業に比べて約1/3の労力で結束でき、針やテープを使って片手で素早く枝と棚線や支柱を固定できます。結束機の使い方を学ぶとみんなどんどん誘引作業にチャレンジしました。Jason君は特に作業が楽しかったらしく、1人でたくさん誘引してくれました。



一生懸命なんにでも挑戦する Jason 君は印象的でした

～大久野島での平和学習と竹原市町並み保存地区～

6月30日（火）にTD校生徒と世羅高校の生徒5名が大久野島での平和学習と自由散策を行いました。

忠海港で戦争の歴史を伝える「大久野島から平和と環境を考える会」代表の山内正之さんと合流し、フェリーで大久野島へ向かいました。大久野島に到着後、毒ガス工場跡地前で戦争中に作られていた毒ガスを使用した兵器についての説明を聞きました。その後、毒ガス資料館に移動し、日本が毒ガスを製造・使用し、大久野島は地図から消されていたことについてご講演いただきました。その後、慰霊碑や当時の建物が残っている場所をめぐり、大久野島とうさぎとの関係についてもお話を伺いました。現在、大久野島には多くのうさぎが生息していますが、当時のうさぎは日本うさぎといって、目の赤い大きなうさぎで食用にもしていたが、いまいうさぎはヨーロッパから来た種だということを知りました。

広島に住む私たちは、ややもすると被害者としての側面を強調しがちですが、今日の平和学習を通して日本が加害者の立場でもあった事実を知り、平和について改めて深く考える機会になりました。被害者と加害者、両方の立場から、戦争で起こった悲劇に向き合い、平和について考えた時間は平和への希望を感じさせました。

大久野島での平和学習後、竹原市で映画の舞台にもなった有名なお好み焼き店「ほり川」で昼食をとり、竹原市の町並み保存地区で自由散策を行いました。



フェリーからの瀬戸内海の景色も絶景でした。



山内さんの説明に真剣に耳を傾ける生徒たちとうさぎ（笑）



アメリカに風船爆弾を落とした話に聞き入る皆さん



資料館では英語によるビデオ上映もありました



瀬戸内海の美しさを眺めると、今現在の平和な大久野島の様子と対照的に感じました。



それぞれのお好み焼きに舌鼓



広島のスウルフードを楽しめて満足でした



願いが叶うなら軽くなる提げ地蔵



古き日本の町並みでタイムスリップした気分



理科教師のマッキー先生は、風車に熱心に見入っておられました

～世羅高校文化祭～

6月26・27日（金・土）、世羅高等学校では文化祭が開催されました。初日は、せら文化センターで各クラスによるステージ発表が行われ、生徒たちはダンスや歌、劇、映像作品などを通して、それぞれのクラスの個性や魅力を存分に発揮しました。今回は、TD校の生徒たちも参加し、世羅高校の生徒とともに文化祭を盛り上げてくれました。

TD校の生徒たちは、世羅高校の一員として、準備の段階からクラスに溶け込み、文化祭を共に楽しんでくれました。TD校の皆さんにとっても、大変満足のいく1日となったようです。



クロエは劇に参加してくれました



2日目の文化祭終了後、2-3全員でハイポーズ！

～和菓子体験～

7月1日（水）、TD生徒とマッキー先生、ケビンさんが、大手門さんの協力により和菓子の製作体験に挑戦しました。手を洗い、エプロン、三角巾を着用して、和菓子職人の方の指導を受けながら練り切り3種を製作しました。計量し、食紅で色付け、小さなパーツを組み立て、かわいらしい和菓子を作ることができました。製作後は、抹茶を点てていただき、試食も行いました。甘い和菓子と苦味のある抹茶をみんなで堪能しました。



手先の器用さが求められる作業も、集中して取り組みました。



いつも TD 生徒の受け入れを快く引き受けてくださる大手門の和菓子の美しさに見とれる TD 生徒たち

～平和についてのディスカッション～

7月1日（水）に、世羅高生15名と留学生4名で、被爆体験伝承講話と広島平和記念資料館、大久野島の見学を踏まえた事後学習を行いました。生徒は4つのグループに分かれて、「広島平和記念資料館の最後に一つ、世界平和に向けた新たな展示を追加するならば？」という問いについてディスカッションを行いました。両校の生徒を交えたグループは、英語でのコミュニケーションを取りながら、真剣な表情でワークシートに記入し、相互にアイデアを発表しました。

生徒からは、日米両方の視点を踏まえて、多角的に考えられるような展示にすべきだという意見が出されました。日本とアメリカの異なる視点を交えた議論は、歴史に関する認識の違いがあること、平和の実現に向けた対話と協力を促進する方法について、両校の生徒が気づきを得る機会になりました。



～Farewell Party～

★T D校生との送別パーティー★

最終日は、町内のレストラン「T i n y」にて、送別パーティーが開催されました。

ホストファミリーとともにテーブルを囲みながら、楽しく歓談しつつ別れを惜しむひとときとなりました。

宴の途中には、日本の伝統的な娯楽の一つである「二人羽織」も披露され、会場は大いに盛り上がりました。

パーティーの終盤には、ホストファミリーからの挨拶、そして、T D校の生徒や先生から感動的な挨拶がありました。

「ホストファミリーの皆さんが美味しいご飯を作ってくれたり、日帰り旅行に連れて行ってくれたりしてありがとうございました。そしてこのプログラムを作ってくくださった皆さんありがとう。日本と平和について学び、忘れられない良い思い出となりました。」「この交流が続き、両校の深い絆が続くことを祈ります。」

この言葉には、会場にいた全員の心が温くなりました。

今回の交流で、T D校と世羅高校の生徒たちは深い友情と国際的な絆を育むことができました。これからの両校にとってかけがえのない思い出となることを願っています。



いつもコートニーは日本大好き



マッキー先生の感謝の言葉



平野校長先生も交流に携わってくださいました



二人羽織で食べるアイス



お互いホストを務めた仲良し同士



学校からのお土産贈呈

～広島空港から米国へ～

7月2日(水)、TD校からの生徒たちが広島空港から帰国の途につきました。天候の関係で、帰国の便を一番早めたので、ホストファミリーらと挨拶をしっかりとすることなく帰って行きました。

この2週間、ホストファミリーの皆様はもちろん、NPO世羅国際交流教育ネットワークの方々、交流事業に関わってくださったすべての方々に感謝を申し上げます。



急に一番前に乗ろうと決まりました



見送りのメンバーのみで記念写真



感動のハグどころではなく去って行きました



みんな元気でね！

フレミング元校長先生とマッキー先生のおかげで、平成22年から続いている世羅高校とTD校の交流が今年も無事終了しました。世羅高校との今後の交流についても、両校での話し合いを経て、オンライン交流も含め、今後の内容を決めています。今年度も3月に、世羅高校からTD校へ生徒を派遣します。毎年ブラッシュアップした研修となるように努めてまいります。